

今後の渇水対策について

現状認識

高梁川水系の主要6ダム（河本ダム、高瀬川ダム、小阪部川ダム、新成羽川ダム、千屋ダム、三室川ダム）の11月6日午前9時現在の貯水量は、45,724千m³（42.9％）です。

今後も少雨傾向が続き、現在の取水量の確保を継続すると仮定した場合、主要6ダムの合計貯水率が「高梁川渇水調整に関する行動計画」で定める渇水調整の目安である40％を下回る恐れがあります。

秋冬季は、夏季と比較して水需要が少ないことから、ダム貯水率の低減が比較的緩やかではありますが、長期的観点に立つと、降水量が少ない条件下で水需要が活性化する夏季まで貯水率を保つ必要があり、夏季までに貯水率が十分に回復しない場合には深刻な渇水が起こることが予想される状況です。

これらから、現在、高梁川水系では、関係機関間で水利使用の調整を行わなければ公共の利益に重大な支障を及ぼす恐れがあり、関係機関が協力して、取水制限等の具体的な対策を実施する段階となっていると判断します。

今後の取り組み

関係機関は連携を密にし、「高梁川水系 渇水対応タイムライン」に沿い、協力して以下の取り組みを行います。

1. 関係機関は、降水量、各ダムの貯水量、河川流況等の状況を把握し、情報共有を図る。（岡山河川事務所においては、ホームページ等を通じて情報提供を行う。）
2. 各関係機関は、流域住民等への節水意識の高揚を図るため、広報を強化する。
3. ダム管理者は、ダムからの補給量を長期的に確保できるよう、速やかに主要6ダムの統合運用（プール）に移行する。
4. 利水者は、下記取水制限に対応する。

11月14日に下記取水制限を開始（第1次取水制限）

◆上水道	（実績取水量から）	2%
◆工業用水	（実績取水量から）	5%
◆農業用水	（実績取水量から）	20%
ただし、畑または酪農に使用するもの	（実績取水量から）	5%

なお、第2回渇水調整会議の開催は、貯水率が30％程度となる頃を予定する。また、取水制限率の変更等を検討する必要がある場合には、渇水調整会議を開催し、対応を協議することとする。